

# 春の叙勲・褒章

令和4年度、春の叙勲・褒章が発表されました。市内の受章者の皆さんを紹介します。



郵政事業功勞  
瑞宝双光章  
くじただひろ  
久慈 匡弘さん  
(侍浜町・74歳)

昭和44年、郵政省（現郵便事業株式会社）に採用。平成25年の退職に至るまで45年間、郵政事業の発展に尽力しました。特に、平成7年からは侍浜郵便局局長、平成22年からは岩手県北部地区連絡会地区副統括局長として地域の郵政事業に貢献しました。

受章にあたり「大学生のとき種市郵便局に欠員があったため二足のわらじを履きながら働き始めました。

紫波郡から洋野町までを含む岩手県北部地区116局で副統括局長として全局に臨局し全局長・職員に接することができたこと、また、幸せな出会いに恵まれ地域の皆さんに支援・協力をいただき、名誉ある叙勲を受章することができたことを心から感謝しています。今後はいささかなりとも地域に貢献できるよう精進して参りたいと思います」と感謝の気持ちを述べました。



消防功勞  
瑞宝双光章  
おぐら あきら  
小倉 明さん  
(大川目町・71歳)

昭和45年に東京消防庁に採用。翌46年に久慈市消防本部消防士を拝命以来、通算38年の長きにわたり、地域の消防防災に尽力しました。指導者としても活躍し、種市消防団を率いて全国消防操法大会優勝、全国消防救助技術大会に選手を2度導きました。

受章にあたり「先輩方や広域管内の消防団の皆さんのおかげだと感謝しています。消防士として印象に残っているのは久慈大火。民家が次々と燃えていくのを目の当たりにしながら、延焼防止に努めました。20㎡以上ある装備を背負い、丸1日現場を歩いて残火処理を行ったことを思い出します。近年は災害も多種多様で複雑化しています。消防士という仕事は相手を信じなければできない仕事だと思うので、職員同士の和を大切に頑張らなくてはなりません。厳しい現場でのご活躍をお祈りします」と後輩にエールを送りました。



児童福祉功勞  
瑞宝单光章  
きよかわ のりこ  
清川 範子さん  
(畑田・76歳)

昭和42年に北海道函館市で保育士となり、昭和44年以降は市内の保育園に勤務しました。平成25年からは門前保育園の園長を務め、退職に至るまで通算54年間保育士として児童の保育に尽力しました。

受章にあたり「このような章をいただけるとは思っておらず、驚き、うれしさ、恐縮する気持ちが混在しています。教育・保育は共育だと考え、子どもを慈しんで育てると同時に、自分も慈しんで育てることを理念としてきました。保育士生活の中で記憶に残っているのは平成28年と令和元年の2度に渡る台風での被災。保育園が浸水し、地域の人や保護者に助けを求めながら、被災の2、3日後には保育園を再開しました。今回の受章は、職場の上司、同僚、出会ってきた子どもたちや保護者、52年間職場まで送り迎えしてくれた夫のおかげです」と感謝の言葉を述べました。



消防功勞  
瑞宝单光章  
なかこうじ けいじ  
中小路 啓二さん  
(小久慈町・75歳)

昭和57年に消防団員に任命され、37年間の長きにわたり、地域の安全を守るため消防活動に尽力しました。平成24年には消防分団長に昇格し、幹部として後進の指導育成に努めるなど力を尽くしました。

受章にあたり「若いころから音楽活動をしていました。ラッパ隊なら自分の特技を活かした活動ができると思い、消防団に入団。団員生活で印象に残っていることは出初式の分列行進です。ラッパ隊として先頭を歩いてきました。東日本大震災では管轄する水門を閉鎖し、高台への避難誘導したことや、数日にわたって野田村の応援に行き、行方不明者の捜索を行ったことも思い出されます。家族の理解・協力があり、良い仲間にも恵まれたからこそ受章できたと感謝しています。消防団は大変だとは思わずに、たくさんの人に入団して欲しいです」と思いを語りました。



業務精勵（建設業）  
黄授褒章  
さいた ひでとし  
税田 英敏さん  
(川崎町・78歳)

昭和53年に父が創業した北星鉱業株式会社に入社し、トンネル工事を中心に地域のインフラ整備に貢献しました。平成21年からは岩手県建設業協会久慈支部長、令和3年からは北星鉱業株式会社社長として地域の建設業を支えています。

受章にあたり「建設業は目立ちませんが、縁の下の力持ちとして、社会資本の整備を担い、形として自分の仕事が残っていくのが魅力です。災害時に出動し、市民の皆さんの生活を支えるという誇りもあります。支部長に就任してからは、東日本大震災からの復旧をはじめ、台風や大雪の際も市民の皆さんの生活が成り立つよう対応してきました。自分だけではなく、会社の仲間や家族、周りの人たち、そしてなにより土木について何も分からなかった私に厳しく指導してくれた亡き父のおかげだと感謝してます」と思いを語りました。